



天沼熊野神社社報

<http://www.amanumakumano.org/>

平成 21 年 7 月 1 日
発行所
天沼熊野神社
宮司 渡辺 寛
杉並区天沼 2-40-2
TEL 3220 - 7866

天沼熊野神社の四季



4月 こいのぼり

お孫さんと一緒のおじいちゃん。
『大きいね』と言っていくお子さん。
「屋根より高〜い.... トリ」と歌っていく小学生。
あなたさまもご覧下さい。清々しくなりますよ。

5月 社務所増築安全祈願祭 21. 4.29

手狭になってきた集会室でしたが、
名誉宮司の奉納で、
集会室の増築を行いました。



お祭の花形です。肩や腕が痛いけど「ワッショイ!ワッショイ!!」

8月 夏祭り



夏祭りの呼び物スイカわり、大人も子供も大喜びです。

天沼今昔物語 (第六話)

天沼の教育施設

江戸時代の庶民の教育といえば寺小屋ですが、残念ながら天沼村にはなかったそうです(荻窪駅の南口付近には稲葉堂という寺小屋がありました)。ですから、天沼での学校教育の始まりは、日大二高通りの交番を北に進んだところにある蓮華寺になります。大正6年6月1日のことでもあります。20畳程の一部屋をお借りして桃野尋常高等小学校(現在の杉一小)の分教場として始めました。現在八町会の会長で、天沼陸橋の近くにお住まいの藤原嘉民さんのお父さん、藤原一嘉さんが初の先生で、1年生、2年生の児童18人の教育にあたりました。学科は修身、読書、習字、算術の四科目で、黒板を半分ずつ使い、半時間ずつ教えていたそうです。司馬遼太郎著の『坂の上の雲』にも、教育は「読み、書き、そろばん、人の道」とあります。やはり、この四つが教育の基本ですね。

また、明治の実業家、日本資本主義の父と言われる渋沢栄一も「右手に論語、左手にそろばん」と言っています。やはり「人の道」が大事ですね。

次に、杉並第五小学校が大正15年4月1日に開校し、教員8名児童31名で始まりました。このため、分教場はなくなりしました。しかし、杉五小の開校記念日は、分教場の始まりを尊び6月1日としました。詳しくは「新天沼杉五物がたり」をお読み下さい。杉五小は、平成20年3月に開校して若杉小と統合し天沼小学校になり、81年の歴史を閉じてしまいました。

天沼小学校は、平成20年4月に開校し、初めての1年生74人が入学、21年3月には天小一期生58人が巣立っていきましました。歴史はこれから作られます。

大正15年10月に、天沼でもう一つの大きな存在である、通称、現在の日大二高(正式には日本大学第二学園)が創立しました。木造二階建てで9学級、540名の始まりだったそうです。本年度83年になります。

当時の日本大学学長 山岡萬之助法学博士がドイツ留学中に得た「中等教育が人格陶冶(トウヤ…才能や性格などを練り鍛えて養成すること。)に重大なる関わりを持っている」ということで、中学校(現在の一高、一中)を大正2年に本所(現在の墨田区両国)に作り、次に、第二中学校(現在の二高、二中)の創設を山野井亀五郎氏に託されました。山野井亀五郎氏は、各地を探されたそうです。最終的に「西に毅然たる富士を仰ぎ、南に杉並の森を眺めるこの天沼を理想的教育地」と定めたそうです。(余談ですが、日本大学の建学(明治22年)の精神は、「欧米心酔の時代、日本の姿を忘却せず、日本文化に裨益(ヒエキ…おぎない役立つこと)し、教

導する。をもって建学の本旨とする。」と、あります。すばらしいですね。今もって同じ精神は必要と感じますし、日本と欧米両方を学ぶともっと良いと思います。)



山野井亀五郎先生の銅像

しかし、理想的教育地といっても、今とは大きく違って、学校の回りは畑や雑木林や竹やぶに囲まれ、東は中野のほうまで、頭も隠れてしまいうようなカヤや雑草のハラツパが続いていて、今はバス通りになっていて日大二高通りも狭い道でした。このため、学校を創っても学校を知っている人がいない、それで、山野井先生自身がトラックに乗って、四谷、牛込、小石川、渋谷から吉祥寺、国分寺、立川、八王子、三多摩等の各地

にビラ貼りや、看板を立てに出かけ、宣伝して回ったそうです。今とは大違いですね。現在の鉄筋4階建てエアコン完備で在校生約2000人の姿は、すばらしい先生達の積み重ねです。

開校前の二高の敷地についてですが、西側は畑や雑木林で、東側は、陸軍中野電信隊の演習地で、その南側は乃木將軍ゆかりの物などを集めて顕彰公園の計画があった草むらだったそうですが、その計画が中止されたあと、当時の杉並町長陸軍少将岩崎初太郎氏や地域の方々の理解、協力を得て、校舎と運動場敷地を獲得し開校の運びとなったそうです。やはり、人と人の繋がりが大事なんですね。

中学校の校舎と校庭のほかに大学のための本格的な陸上競技場と野球場が整備され、日本大学陸上部の合宿所もありました。開校した当時には、土曜、日曜になると東鉄（東京鉄道管理局）などのノンプロチームがこの球場を使ったりしていました。このため、天沼では野球熱が高

まり、昭和2年、開校早々に杉五小が全国大会で優勝するきっかけを作ることにもなったようです。戦後も熊谷組が練習に来ていまして、娯楽がない、物が無い時代でしたので、近隣の子供たちはその練習を一生懸命見ると併せて、折れたバットを探しては釘でつないで遊んだりもしていました。

第二学園の80余年の歴史の間には色々な出来事がありました。その中でも、太平洋戦争勃発直後に、中島飛行機製作所をはじめ多摩地区の軍需工場への輸送動脈として天沼陸橋の建設が始まりました。この時に日大二中の生徒らも動員学徒と一緒にモッコ担ぎをしたことがあります。また、残念なことですが、戦後まもない昭和23年、昭和24年に三度の火災にあつたりもしています。平々凡々な80余年ではなく、幾多の困難を乗り越えて学園発展の道を歩んできたのです。また、地域との協調、融和にも連綿として努めています。例えば、昭和2年に鶴見小が杉五小との野

球の試合を行うためにはる遠征してきましたが、その会場としてグラウンドを提供したり、昭和25年頃には、杉五小の学芸会に講堂を提供したり、今でも、地域の消防団にポンプ操法訓練の場を提供したりもしています。

そして、平成の御世になり、21世紀に向け新たな時代に対応するため、昭和29年から二代目理事長の職を担っていた山野井和雄氏は、とりわけ少子化の問題を大きな課題と捉え、中学・高校一貫教育は保ちつつ、新たに男女別学から男女共学への移行（杉五小でも昭和22年までは、制度的には男女別学でした）とそのため諸施設、組織の再構築を掲げ、平成10年に正門、本館、校舎、外回り等を整備し、信頼敬愛、自主協同、熟誠努力の校訓を基に、幾多の災いあるうともそれらを乗り越え、更なる飛躍を求め学園関係者一同が一丸となって日々努力を重ね今日に至っています。

さて、杉五小、日大二高と同じ時期、昭和2年12月22日

に日大幼稚園も日本大学唯一の付属幼稚園として開園しています。当初は1学級19名で始まりましたが、現在は3年保育で各3クラス190人、700余名の卒園生を社会に送り出しています。またまた余談ですが、私は杉九サッカークラブでもコーチをしています。このコーチ陣の中で、日大幼稚園から始まった先輩後輩の関係を、杉五小、天中と続け、杉九サッカークラブで再度その関係が復活した人達がいまです。始まりは日大幼稚園だったのです。地域の繋がりとはい面白いですね。

また、戦後、お母さんたちの発案でお母さんたちが幼稚園児たちに給食を作り始めました。現在では、専任の栄養士と調理スタッフにより幼児向けに工夫され、また、近くの、豆腐屋さん、魚屋さんからも食材を仕入れたりして、給食が作られています。幼稚園自体で給食を作っていることは杉並区でも珍しいそうです。

そして、秋になりますと、お兄さん、お姉さん園児たちが、弟、妹園児たちの手を引

いて、熊野神社にどんぐり拾いにやってきました。どんぐりを捜している喜々とした園児たちの姿にパワーを感じ、また、パワーも貰い、また、幼稚園の教育が充実していることも感じます。まさに地域に根ざした幼稚園ですね。

最後に、今回この三施設の始まりがほぼ同じ時期という事を始めて気づきました。これは偶然ではないと思います。荻窪駅が明治24年にできて37年、東京駅が大正3年にでき、大正8年に中央本線がつながり都心との繋がりが強くなり、荻窪駅が地域の物資の集積、移動のためではなく、人の移動のための駅に変わりつつあった時期、また、大正12年の関東大震災で、当時の杉並町1800戸で、全壊が10戸、死者行方不明者0、火災無しという、安全な地域、また、近隣の方の話で、「昭和10年頃で水道と電気があるのは中央沿線では荻窪駅まででしたので、麴町から移ってきました。」とあるように、文化的な生活ができる天沼とい

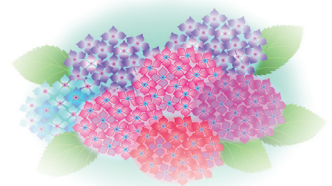
う場所を選んで、人口が増加して来た時期、そして、東京都土地区画事業が大正11年から開始され、ここ天沼では昭和6年からこの事業が行われました。そのような、東京市郊外が姿を変えていく時期で、当時の荻窪駅周辺の人々、天沼の人々が「変化に対応していこう」という気持ちを強く持ったからだと思います。更に重ねて考えると、お武家さんの時代には、村の人々の意思では何もできなかったのが、明治、大正と過ぎてきて、昭和になり「自分たちの町は自分たちで創っていくんだ」と、夢を実現し始めた頃だったとも思います。

以上、天沼の教育施設について述べさせていただきましたが、天沼中学校（昭和22年5月2日開校）については紙面の都合で次回以降をお楽しみにされてください。また、誤りやご指導がありましたら社務所にお電話でも結構ですのでご連絡いただければ幸いです。



幼稚園内のやますべり

和服を着た先生もいらっしやいます。この園児たちも今では、りっぱなおじいちゃん、おばあちゃんになっています。



園舎より第二運動場をのぞむ

昭和8年の天沼の様子が見えます。建物が少なく、右手のほうは慈恩寺さんで、杉の木もまだ見えますし、左手の煙突は、今は無い庚申湯というお風呂屋さんです。